

2020 年 5 月 1 日

35 回生のみなさんへ

3 学年主任 鈴木義章

誰が決めるのか？

5 月になりました。兵庫県内の学校の休校期間は延長されました。緊急事態宣言は延長されそうです。待つしかないみなさんは何を感じていることでしょうか。学校再開を待つしかないのは私たちも同じです。政府が国の政策・方針を決め、都道府県の判断で様々な要請を出し、教育委員会の指示のもと神戸高塚高校の再開時期が決まります。「早くしてくれ〜!」と言っても政府の要請や公式通知と違う動きはできません。この状況に不満を抱き、不安を募らせるよりも、現状で自分自身ができることを一つずつ行うことの大切さは重ねて伝えてきました。

さて、不要不急の外出を控えているとオンラインによる交流の機会が増えてきました。みなさんとオンライン授業で会える日が来るのも近いのではないかと時代の潮流を感じています。私は先週と昨日にオンライン〇〇会で中学校の同級生とモニター越しに再会しました。その中の一人にMという友人がいます。一緒に全国大会に出場したサッカー部の仲間です。彼は現在ある外資系企業の日本支社長をしているエリートです。2001 年 9 月 11 日に起こった出来事を知っていますか？その日に、ニューヨークの金融関連企業が集結していたワールドトレードセンター（WTC）に 2 棟のタワービルがイスラーム過激派テロ組織アルカーイダによるハイジャック機によって破壊された『アメリカ同時多発テロ事件』が起きました。M はその時、2 機目が突入した南棟のオフィスで働いていました。先に北棟にハイジャック機が激突し、隣の南棟では異変に気付いたビル内の全員が避難を始めました。当時、各職場には緊急時の対応マニュアルがありました。「緊急災害時のエレベーター使用」について「停電に備えて・・・」などの記載があったことでしょうか。状況を正しく把握できていない状態での緊急放送もあったようです。想定外の事態を現場では把握できず、外部とも連絡が取れずに混乱が広がっていました。階段を使用するかエレベーターを使用するかの判断は当時の現場にいた各自が行いました。M はエレベーターで避難しました。避難を終えた数分後に、いや数秒後かもしれません。数分前まで働いていた南棟に 2 機目のハイジャック機が激突しまし

た。移動に要する時間は階段よりもエレベーターの方が早く、同じフロアで同じタイミングで避難を始めた同僚で、階段を利用して犠牲になった方がたくさんいたようです。生死を分けた裏側には、マニュアルよりも現場の状況をよく観察して、「命を守る」ために早さを優先して避難をした冷静な判断があったようです。「誰かが教えてくれるだろう」という受け身の姿勢では、このような緊急事態には対応できなかったはずです。日常から自分自身の知識と経験を総動員して、情報を正しくキャッチして、主体的に動いていく力をつけましょう。

ところで、みなさんはHPを毎日見てくれていますか？情報は毎日更新されています。見逃すことにより、後で後悔することがないようにこまめにチェックしてください。GW明けには課題や連絡事項などの情報が満載のレターバック第2弾を送ります。歩みを止めず、自分の足で前に進みましょう。先が見えなくても見えるところまで進んでみて、やれることをやっているうちに、さらに遠くの違った大切なものが見えてきます。みなさんの可能性は無限大です。

No Sight but On Sight!